

令和5年度第5回経営協議会議事要録

日 時 : 令和6年1月18日(木) 15:00 ~ 16:52

場 所 : 熊本大学事務局棟1階大会議室 ほか

出席者 : 小川 久雄、富澤 一仁、大谷 順、宇佐川 毅、水元 豊文、黒沼 一郎、
馬場 秀夫、赤木 由美、秋池 玲子、Oussouby Sacko、笠原 慶久、木下 統晴、
後藤 芳一、田嶋 徹、原 幸代子、村田 信一

欠席者 : 倉津 純一、本松 賢

陪 席 : 宮尾 千加子、渡辺 啓子、立石 和裕、金岡 省吾、市川 聡夫、岸田 光代、
前田 ひとみ、藤田 豊、尾池 雄一

議 題

1. 大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻の学生募集について

議長から、マサチューセッツ州立大学ボストン校における新型コロナウイルス感染症による影響や組織改編に伴い、大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻の学生募集を停止することについて審議願いたい旨提案があった。

次いで鹿嶋社会文化科学教育部長から、資料1に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

2. 令和6年度予算編成の基本方針について

議事に先立ち、黒沼理事から、資料7に基づき、令和6年度国立大学関係予算案の概要及び国立大学法人等施設整備費の内示事項等について報告があった。

次いで議長から、令和6年度予算編成の基本方針(案)を作成したので審議願いたい旨提案があった後、黒沼理事から、資料2に基づき、内容について説明があり、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 資料については、事前説明の際に申し上げた内容を汲んでいただいて感謝しているが、抽象的な内容という印象である。今回は予算の枠組みの方針であると思うが、外部資金や病院収入の増収などといった方針や、半導体関係をはじめ多くの予算を必要とする点を示していただくと、議論がしやすいのではないかと。ただ、そのような点は3月の本会議までに議論されることと理解している。

◇ 大学として重点的に取り組んでいる事業や、逆に未だ実行できていない項目などメリハリをつけて説明いただくと分かりやすい。

◆ 3月の本会議には、そのような点も説明をできるようにしたい。

◇ 資料10「熊本大学病院の経営状況等について」のような、これまでの実績等を踏まえた説明があると分かりやすい。

3. 中期計画の一部変更について

議長から、中期計画の別表の一部変更について審議願いたい旨提案があった。

次いで富澤理事から、資料3に基づき、変更内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

4. 令和7年度の医学部医学科臨時定員について

議長から、医学部臨時定員地域枠5人を令和7年度まで延長することについて審議願いたい旨提案があった。

次いで尾池医学部長から、資料4に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

5. 令和5年人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与等について

議長から、令和5年人事院勧告に伴う熊本大学役職員の給与改定について審議願いたい旨提案があった。

次いで水元理事から、資料5に基づき、令和5年人事院勧告の内容と給与改定の概要について説明があり、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 人事院勧告に則って給与改定を実施することは、より良い人材を採用する、あるいは良い人材を維持するという点で必要であると思うが、退職する職員がいることでベースアップ分を充当できるということは、本来おかしいのではないか。なるべく職員が辞めないように人件費を確保して、職員が辞めた際には中途採用ができるようにする取り組みが望ましく、ベースアップ部分を別立てで予算化するなどの工夫をしていくべきであると考え。ただし、今回の給与改定の実施については差し支えない。

◇ 退職者が出るということは本来確定的でないため、職員が欠員になった部分は予め人件費として見込んで予算立てすることが通常考え方ではないかと思う。想定より退職者が多かったということになるので、そもそもの退職する原因や、その対策について検討を進めるべきではないか。

◆ 地方の大学に応募する人材がなかなかいないという点もあり、本学としても職場環境の整備を行っているが、現状として大都市圏の有名大学や好待遇の企業に引き抜かれる人材も多い。財政的になかなか余裕はないが、職員の給与については、ベースアップ分を含めた予算の確保策を考えることは必要であると思う。今後の教職員採用のあり方を考える中で、それらの点についての仕組み作りを検討していきたい。

◆ 他大学においては、人事院勧告に則った給与改定が財政的に実施できないところもあると聞いている。しかしながら、本学としても、綱渡りの対応ではない方法を今後検討していきたい。

◆ 予算編成で予め見込んでおくべきではないかというご指摘に関しては、人事院勧告自体が年

度途中で実施されるものであるため、人事院勧告に則った給与改定を見越した予算立てはなかなか難しい。仮に給与改定を実施する予算が足りない場合、当初予算に補正をかける方向で議論を進めていくべきであるが、今回は退職者や欠員分によって予算補正までは必要ないと説明したものと理解している。

6. 熊本大学病院における医学部医学科学生に対する奨学金制度の創設について

議長から、優秀な研修医及び専攻医の増加を図るため、学業が優れた学生に経済的支援を行うことを目的とする熊本大学病院における医学部医学科学生に対する奨学金制度の創設について審議願いたい旨提案があった。

次いで馬場病院長から、資料6に基づき、制度の概要について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

報告連絡

1. 令和6年度予算内示事項について

議題2「令和6年度予算編成の基本方針について」において報告

2. 災害に伴う入学検定料、入学料及び授業料の免除取扱方針の一部改正について

宇佐川理事から、資料8に基づき、入学検定料の免除実施の決定について、年度当初の見込み範囲内であれば経営協議会及び役員会における報告を不要とする熊本大学の災害に伴う入学検定料、入学料及び授業料の免除取扱方針の一部改正について報告があった。

3. 国立大学法人熊本大学統合報告書の刊行について

富澤理事から、資料9に基づき、国立大学法人熊本大学統合報告書の刊行について報告があった。

意見交換

1. 熊本大学病院の経営状況等について

馬場病院長から、資料10に基づき、大学病院における今年度の経営状況等について説明があり、種々意見交換が行われた。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 非常に丁寧な資料である。経営改善の取り組みの一覧の中に、ネーミングライツ事業やクラウドファンディングを活用されており、実に努力をされている印象を受けた。

◇ 大変努力されていると思う。高額な医薬品や医療機器がコスト要因であるのは、全国的・構造的な問題であるため、価格交渉による削減には限界があると察する。一方、重度で設備の稼働率に寄与する患者を選別的に受け入れる策を講じている病院もあると聞く。大学病院では容易でないかもしれないが、手前で大きいクリニックを作ってトリアージする、他の医療機関と

役割分担するといった仕組みで実現している。人件費の増加は、人事院勧告による給与改定の影響もあると思うが、看護職を始めとする医療スタッフの定着が上手くなされず、採用コストなどで見えない人件費を要しているというようなことはないか。ある病院では、外来の各科に何十人単位で派遣職員を配置して、医師や看護師の業務負担を減らすことで、結果として病院全体の人事運用と質の確保に繋がっている取り組みもある。

- ◆ 貴重なご意見に感謝したい。診療単価については、在院日数と病床稼働率のバランスを取りながら、全国平均に少しでも近づけるようにしていくように取り組んでいる。しかしながら、最近の円安による医薬品や医療機器の価格高騰については、メーカーとの価格交渉により値引きを行っていても非常に厳しい状況が続いている。さらに、人件費に関しては、ご指摘のとおり、人事院勧告によるものが大きい。加えて、医師の働き方改革に伴い、人員を増加させたことも一因である。以上のとおり、医薬品代の高騰や人件費の増加に加え、エネルギーの高騰もあり、厳しい収益率となっている。
- ◇ 全国の他の大学病院の経営がこれだけ厳しいので、当院はかなり努力されていると思う。国の政策は全体の厳しさを見て制度や支援を考えてくるので、引き続き粘って水準以上を維持することが肝要ではないか。在院日数と病床稼働率を効率よく運営するには、転院先の受け皿が重要で、医療機関や訪問看護など地域の資源を充実させるような支援と組織化が重要ではないか。
- ◆ 非常に大事な点をご指摘いただいた。確かに、周辺地域の病院と良好な関係を維持し、それぞれの患者に適した転院を進めていかないといけないことは常々考えている。実際に、連携病院長会議を開催し、関連病院の関係者と互いに顔の見える関係を作りながら、在院日数の短縮に繋がる取り組みを行っている。

以 上

○ 次回開催：令和6年3月14日（木）

<配布資料>

- 資料 1 熊本大学大学院社会文化科学教育部熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻（ジョイントディグリープログラム）の学生募集について
- 資料 2 令和6年度熊本大学予算編成の基本方針（案）
- 資料 3 国立大学法人熊本大学の中期計画新旧対照表（案）ほか
- 資料 4 医学部医学科令和7年度入学定員（案）ほか
- 資料 5 熊本大学役職員の給与改定について（案）ほか
- 資料 6 熊本大学病院における医学部医学科学生に対する奨学金制度の創設について（案）ほか
- 資料 7 令和6年度国立大学法人関係予算案の概要 ほか
- 資料 8 「熊本大学の災害に伴う入学検定料、入学科及び授業料の免除取扱方針」の一部改正（案）新旧対照表 ほか

- 資料 9 国立大学法人熊本大学統合報告書2023
資料 10 熊本大学病院の経営状況等について